

## カリキュラムの充実・強化のための調査先一覧

NO	調査先講座名称	対象	運営主体	期間等	スタイル	ページ
1	地域づくり人(びと)養成講座	地域づくりのリーダーとなる人材	えひめ地域政策研究センター(ECPR)	全6回	講義、フィールドワーク等	P1-2
2	四国サイコーダイガク	四国の中小企業者、農林水産業者、支援者	中小企業基盤整備機構四国本部(中小機構四国)	平成24年4月下旬～平成25年3月(毎月1回程度)	講義、ビジネスプラン作成	P3-9
3	地域プロデューサー育成塾	まちづくりに関心のある方	青年会議所地域リーダー育成委員会	全6回	講義、ワークショップ	P10-12
4	はちおうじ志民塾	50才からの地域リーダー育成	八王子市協働推進課	全11回	講義、ワークショップ	P13-16
5	筑波学院大学オフキャンパスプログラム(OCP)	大学生	筑波学院大学	通年	講義、実践	P17-21



## 1. 地域づくり人（びと）養成講座

地域づくり活動のためのワークショップ講座やテーマ毎に各地域に赴いて地域の現状に即した課題解決の道筋を学ぶ専門講座など、実践を重視した講座。

### 1. 開講概要

研修名称	地域づくり人（びと）養成講座
日程	・全6回講座とし、6月～12月まで月1回ペース（平日3回、土日3回）で実施
場所	・愛媛県男女共同参画センター、遊子漁業協同組合ほか
スタイル	・「講義」、「グループワーク」、「フィールドワーク」で構成
受講生	・まちづくりに関心のある人。（県内の地域づくり活動者、各種団体関係者、行政職員、学生、その他。）
研修費用	・無料（飲食費、研修会場や集合場所までの旅費は自己負担）
主催	・公益財団法人 えひめ地域政策研究センター

### 2. 研修概要

研修内容	・地域づくり活動のためのワークショップ講座やテーマ毎に各地域に赴いて地域の現状に即した課題解決の道筋を学ぶ専門講座など、実践を重視した内容。
研修目標・狙い	・地域の実態に即した実践的な研修を通じて、地域づくりのリーダーとしてのスキル向上を図り、各地域において活動の中心となる人材を育成する。 ・研修を通じて県内各地の地域づくり実践者との交流をはかり、将来にわたる幅広い地域づくりネットワークの構築を図る。

### 3. 主な講師陣

■前田 眞（邑都計画研究所代表取締役、（特非）まちづくり支援えひめ代表理事）他

### 4. テキスト

・必要に応じて資料を配付し用いる。

## 5. 実施カリキュラム・スケジュール

回数	内 容		概 要
講座日			
第1回(座学)	開講式・オリエンテーション(まちづくり総論・アシスト事業実績報告)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・開講式及びオリエンテーション</li> <li>・講義Ⅰ:まちづくり総論(前田氏) まちづくりについてやワークショップの手法等について学びます。</li> <li>・まちづくりアシスト事業報告</li> <li>・講義Ⅱ:地域づくりにおける全体的なお話 第一次産業全般について及びその中で地域づくりなど、全体的なことについて学びます。</li> </ul>
6月23日(土)	場所	松山市(愛媛県男女共同参画センター)	
	講師	前田 眞氏	
	専門講師	愛媛大学農学部 教授 森賀 盾雄氏	
	専門講座	第一次産業における地域づくり(仮)	
第2回(ワークショップ)	地域づくり専門講座(水産業を通じた地域活性化)		鯛を活用した「たべ鯛バーガー」などの商品開発を行うとともに、地元の食材を現地で調理できる「キッチンカー」を活用し、県内各地で販売を行うなど、水産業における生産から加工販売までの一連の取組みを通じて地元漁業振興による地域活性化について学びます。
7月20日(金)	場所	宇和島市遊子地区	
	講師	前田 眞氏	
	専門講師	遊子漁業協同組合 女性部長 山内 満子氏	
	専門講座	水産業を通じた地域活性化(仮)	
第3回(ワークショップ)	地域づくり専門講座(複業的林業を通じた地域づくり)		近年、木材価格が低迷している中で、会員やボランティアのメンバーが参加し、間伐や搬出作業を行い、端材や切り株、傷ついた材木などをバイオマス発電施設へ原料として出荷するなどの仕組みが形成されており、環境保全も視野に入れた地域活性化が図られていることについて学びます。
8月24日(金)	場所	高知県いの町(1泊2日)	
8月25日(土)	講師	前田 眞氏	
	専門講師	NPO土佐の森・救援隊 事務局長 中嶋 健造氏	
	専門講座	複業的林業を通じた地域づくり(仮)	
第4回(ワークショップ)	地域づくり専門講座(農業を通じた地域内における食育や知恵の伝承)		“地元で産業・雇用の場を作りたい”と「森のともだち農園」を設立し、その地域にしかない風土を活かした特産物の加工販売を行い、地域ブランドの確立及び町内外の子供たちに農業を通じた食育や風習、伝統の継承、コミュニケーションの場を構築しているなど、地域住民と連携した取り組みについて学びます。
9月21日(金)	場所	今治市	
	講師	前田 眞氏	
	専門講師	森のともだち農園 代表 森 智子氏	
	専門講座	農業を通じた地域内における食育や知恵の伝承(仮)	
第5回(ワークショップ)	地域づくり専門講座(農林水産業が連携した着地型観光)		農業・林業・水産業の全ての第一次産業をコラボレーションして作り上げた「着地型・体験型観光」のモニターツアーを行っており、それぞれの分野を繋ぎ合わせ、ツアーを展開しているなど地域一体となって取り組んでいる点について学びます。
10月19日(金)	場所	伊予市双海町	
	講師	前田 眞氏	
	専門講師	伊予市地域おこし協力隊 富田 敏氏	
	専門講座	農林水産業が連携した着地型観光(仮)	
○地域づくり団体研修交流会			講座で学んだことを活かし、実際に広田地区において、グループごとにフィールドワークを行い、新たな地域資源の発掘や地域の魅力の再発見し、地域活性化へ繋げることとします。また、講座卒業生や地域づくり団体などの交流も深めます。
日 時 : 平成24年11月中旬			
場 所 : 伊予郡砥部町広田地区(予定)			
講 師 : 未定			
形 式 : フィールドワーク			
第6回(座学)	開講式、受講生による自主研究発表		<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了証授与及び開講式</li> <li>・受講生による自主研究発表(5分)</li> </ul>
12月8日(土)	場所	松山市(愛媛県男女共同参画センター)	
	講師	前田 眞氏	



## 2. 四国サイコーダイガク

四国サイコーダイガクは、農林水産物や観光資源など数多くの素晴らしい地域資源が存在する四国の魅力を広く伝えていくため、四国をもう一度考え（再考）、四国をもう一度元気にし（再興）、四国を最も素晴らしい場所にする（最高）という想いを込めて、中小企業基盤整備機構四国本部（中小機構四国）が平成21年5月に創設したものです。

四国サイコーダイガクでは、四国の中小企業者、農林水産業者、支援者による相互学習と補完的な連携活動及び外部からの知識、ノウハウ、アイデアの導入などにより、新たな商品・サービスを開発し、そのプロセスを含めた開発成果を四国内外に広く発信することで、新たなビジネスの創出と地域でのノウハウ構築を図るとともに、四国における地域振興モデルの形成を目指しています。

### 1. 開講概要

研修名称	四国サイコーダイガク
日程	・平成24年4月～平成25年3月
場所	・開講式、中間発表会、活動成果発表会は香川県高松市での開催 ゼミナールの開催場所は、参加メンバーの状況に応じて適宜決定
スタイル	・「講義」、「グループワーク」、「フィールドワーク」で構成
受講生	・四国で地域ビジネス創出を目指す中小企業経営者、個人事業主、農林水産業者等 ・企業経営、事業運営、起業等に関する経験またはそれに相当する見識を有する者であること。 ・地域ビジネスの構想と起業、事業化に向けた意欲を有していること。 ・約1年間を通じての開催（合宿を含む）に参加できること。
研修費用	・無料（開催場所までの交通費、宿泊費等に係る費用は各自負担）
主催	運営主体：独立行政法人中小企業基盤整備機構四国本部 協力：四国経済産業局

### 2. 研修概要

研修内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミナール形式での演習 — 専門家による講義、ケースメソッドによる実践的演習—</li> <li>2. 現地実習（合宿含む） — フィールドワーク、事例研究等による実務演習—</li> <li>3. ビジネスプラン作成 — 自身の地域でのビジネスプラン作成—</li> </ol>
研修目標・狙い	・地域の課題解決と持続的発展をもたらす地域ビジネス（※以下の定義を参照）の起業、事業化を目指す人材を育成し、地域ビジネス創出に不可欠なキーパーソンの輩出を通じて四国各地での地域ビジネス創出をめざす。

### 3. 主な講師陣

■前田 眞 ( 呂都計画研究所代表取締役、(特非) まちづくり支援えひめ代表理事)

### 4. テキスト

・第1回専門講座「まちづくり総論」、その他必要に応じて資料を配付し用いる。

### 5. 実施カリキュラム・スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開講式	▼ 開講											
ゼミナール		▼ (第1回)	▼ (第2回)		▼ (第3回)		▼ (第4回)		▼ (第5回)	▼ (第6回)	▼ (第7回)	
現地実習				▼ (第1回)		▼ (第2回)		▼ (第3回)				
中間発表会							▼ 中間発表会					
ビジネスプラン作成 支援			→									
活動成果発表会												▼ 活動成果発表会開催

### 6. カリキュラム詳細

日程	時間	内容	講師(担当者)	場所
【開校式】 4月27日 (金)	14:00 ～	<主催者挨拶> -プロジェクトの狙いと参加者に対する期待-	中小機構 四国本部長 三村勉	中小機構 四国本部
	14:10 ～	<オリエンテーション> -これまでのダイガクの取り組み、プロジェクトの目標、体制及び流れについて-	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 主任 秋庭 淳志	
	14:45 ～	<講義> 事業化の達成に向けて欠かせないポイントとは!	芝浦工業大学大学院 工学マネジメント研究科 教授 平野 真 氏	

	15:30 ～	<講義> 成功する起業家の共通点について	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦 中小機構四国 経営支援部 連携推進課 プロジェクトマネージャー 中庭 正人	
	15:45 ～	<休憩>	—	
	15:50 ～	<参加者自己紹介(1人5分)>	参加者	
	16:55 ～	<参加者自己紹介(1人6分)> (課題:(株)ルネサンス・プロジェクトの事例読解、並びに同事例の成功要因について箇条書きで構わないので、メモに書き出してくる)	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦	
【第1回講義】 5月28日 (月)	13:00 ～	<講義> 事例でひも解く生き残る地域ビジネスの特徴 —地域資源を事業化する発想法とマーケティング戦略—	芝浦工業大学大学院 工学マネジメント研究科 教授 平野 真 氏	中小機構四国本部
	14:15 ～	<休憩>		
	14:20 ～	<講義・ワークショップ> 地域ビジネスの事業化に欠かせない発想とは！ —(株)ルネサンス・プロジェクトの事例等—	九州大学 ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター副センター長／准教授 五十嵐 伸吾 氏	
	17:20 ～	<事前課題の説明> (課題:別添フォーマットに従い、自身のビジネスモデルに近い事例(競合)の調査、並びに自身の課題の再検討などをしてくる)	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦	
【第2回講義】 6月20日 (水)	13:00 ～	<講義・ワークショップ> 「ビジネスモデル＝儲けの仕組み」を徹底理解！	ファワード・グッド 代表 原 賢治 氏	中小機構四国本部
	16:00 ～	<休憩>	—	
	16:10 ～	<討論会> ビジネスモデル討論会①	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦	
	16:55 ～	<討論会> ビジネスモデル討論会②	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 プロジェクトマネージャー 中庭 正人	
	17:40 ～	<事前課題の説明> (課題:自身のビジネスプランの初稿作成)	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦	

【第3回講義】 7月18日 (水)	13:00 ~	<講義・ワークショップ> 企業存続の鍵はマーケティングにあり!! -売れるメカニズムを考えてみよう-	株式会社コンサラート 代表取締役 CEO 岩岡博徳 氏	中小機構 四国本部
	16:00 ~	<休憩>	-	
	16:10 ~	<事前課題の説明> (課題:第1回実施研修先に関する資料をよく読み、 別添ひな形に従い、実地研修先が考案したビジネス プランのマーケティング戦略を再構築してくる)	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 主任 秋庭 淳志	
	16:55 ~	<講義> 予備調査結果の報告と仮説の設定方法について	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦	
	17:40 ~	<質疑応答・アンケート記入>	-	
【第1回実地研 修】 8月27日 (月)、28日 (火)	1日目	<現地調査> ※現地研修先が考案した着地型観光ツアーを体感 するなど、調査を実施	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦 中小機構四国 経営支援部 連携推進課 プロジェクトマネージャー 中庭 正人	愛媛県伊予市内
		<座談会> -地域ビジネスに必要な経営理念とは-	元双海町教育長、観光カリスマ 若松 進一 氏	
	2日目	<ワークショップ・発表・質疑応答・振り返り>	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦 中小機構四国 経営支援部 連携推進課 プロジェクトマネージャー 中庭 正人	
		<事前課題の説明> (課題:第4回講義に関する資料の読解、並びに自 身のビジネスプランの第二稿作成)	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 主任 秋庭 淳志	
【第4回講義】 9月26日 (水)	13:00 ~	<講義・ワークショップ> メディアの心を掴んで離さない!プロモーションの匠 となるには!	有限会社プリズム 代表取締役 妹尾 浩二 氏	中小機構 四国本部
	15:00 ~	<休憩>	-	
	15:10 ~	<事例研修・ワークショップ> 地域ビジネスにおける新事業展開の成功要因と今 後の戦略について	株式会社 伊賀の里モクモク手づくりファーム 取締役専務 吉田 修 氏 株式会社モクモク流農村産業研究所 主任研究員 篠原 辰明 氏	

	17:10 ～	<講義・ワークショップ> 第4回講義事前課題のフィードバックと全体討議	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦	
	17:25 ～	<事前課題の説明> (課題:自身のビジネスプランの第三稿作成)		
【第5回講義】 10月18日 (木)	13:00 ～	<講義・ワークショップ> 収支&資金計画はあなたの事業の道しるべ!! -事業を軌道に乗せるカギは両計画にあり-	釧路公立大学 地域経済研究センター 教授 佐野 修久 氏	四国本部 中小機構
	17:40 ～	<中間発表会の説明>	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦	
【第2回実地研修】 11月16日 (金)	11:00 ～	<講義・討論会・現地調査> 上勝町におけるシェアカフェ・ハウスの取り組みなどについて		上勝町内
	14:00 ～	<講義・座談会> とくし丸の創業前後における取り組みなどについて	株式会社とくし丸 営業本部 村上 実 氏	徳島県徳島市内
	16:30 ～	<討論会> ビジネスモデル討論会	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦 中小機構四国 経営支援部 連携推進課 プロジェクトマネージャー 中庭 正人	
【中間発表会】 12月10日 (月)	13:00 ～	<中間発表会> (参加者1人あたり発表8分、講評7分)	ストラテジー&タクティクス株式会社 代表取締役社長 佐藤義典 氏 四銀キャピタルリサーチ株式会社 顧問 金子 直人 氏 芝浦工業大学大学院 工学マネジメント研究科 教授 平野 真 氏	中小機構四国本部
	16:30 ～	<総括>	ストラテジー&タクティクス株式会社 代表取締役社長 佐藤義典 氏	
	17:00 ～		四銀キャピタルリサーチ株式会社 顧問 金子 直人 氏	
	17:10 ～		芝浦工業大学大学院 工学マネジメント研究科 教授 平野 真 氏	
	17:20 ～	<主催者挨拶> 最終成果発表会に向けて	中小機構 四国本部長 三村勉	
【第6回講義】 1月21日 (月)	13:00 ～	<事例研究・討論会> 管理会計の徹底こそが地域ビジネスの飛躍を生む! -ファームが徹底して数値にこだわる理由とは-	有限会社広野牧場 代表取締役 広野 豊 氏	中小機構四国本部

	14:45 ～	休憩		
	15:00 ～	<p>&lt;事例研究・討論会&gt;</p> <p>グローバルな視点が地域に埋もれた宝を見つけ出す！</p> <p>—地域の宝と自身をつなぐ仲間づくりの秘訣とは—</p>	株式会社トループ・ネットワークス 代表 トムヴィンセント 氏	
	17:00 ～	<最終成果発表会・討論会の説明>	—	
【第7回講義】 2月20日 (水)	13:00 ～	<p>&lt;講義・ワークショップ&gt;</p> <p>人を動かすロジカルプレゼンテーション！！</p>	日沖コンサルティング事務所 代表 日沖 健 氏	四国本部 中小機構
	16:40 ～	<休憩>	—	
	16:50 ～	<p>&lt;講義・事例研究・討論会&gt;</p> <p>「地域への想い」と「志」が地域ビジネスの成功を生む！</p> <p>—道後と今治を紡いだ先輩起業家に学ぶ 地域ビジネスに必要なアントレプレナーシップとは—</p>	株式会社エイトワン 代表取締役 大藪 崇 氏	
【最終成果発表会・終講式】 3月20日 (水)	13:30 ～	<p>&lt;主催者挨拶&gt;</p> <p>地域ビジネス人財育成プロジェクトの狙いと取組について</p>	中小機構 四国本部長 三村勉	サンポートホール高松
	13:40 ～	<p>&lt;基調講演&gt;</p> <p>地域ビジネスがただの田舎を誇りが持てる地域に変える！</p> <p>—地域とともに成長し続けるビジネスモデルとは—</p>	有限会社シュシュ 代表取締役 山口成美 氏	
	14:40 ～	休憩	—	
	14:50 ～	<p>&lt;参加者によるプレゼンテーション(6名)&gt;</p> <p>(参加者1人あたり10分)</p>	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 プロジェクトマネージャー 中庭 正人	
	15:50 ～	休憩	—	
	16:00 ～	<p>&lt;参加者によるプレゼンテーション(6名)&gt;</p> <p>(参加者1人あたり10分)</p>	中小機構四国 経営支援部 連携推進課 チーフアドバイザー 里見 和彦	



<p>17:00 ~</p>	<p>&lt;終講式&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業証書の授与</li> <li>・来賓・専任講師挨拶</li> <li>・地域ビジネス人財育成プロジェクトのフォローアップについて</li> </ul>	<p>【卒業証書の授与】</p> <p>中小機構 四国本部長 三村勉</p> <p>【来賓・専任講師挨拶】</p> <p>四国経済産業局 産業部長 林恒夫 氏</p> <p>芝浦工業大学大学院 工学マネジメント研究科 教授 平野 真 氏</p> <p>【地域ビジネス人財育成プロジェクトのフォローアップについて】</p> <p>中小機構四国 経営支援部 連携推進課 主任 秋庭 淳志</p>
<p>18:00 ~</p>	<p>交流会</p>	<p>—</p>



### 3. 地域プロデューサー育成塾

全6回の講義やワークショップを通し、まちづくりについて入門編から応用編まで一通り学び、地域ビジョンを描きます。まちづくりの理念や手法を学び、地域の未来を創造する「地域プロデューサー」の育成を行います。地域プロデューサーとは、有機的な連携による持続可能な地域の実現にむけて、地域の住民、自治体や企業、NPOなどと連携しながら、地域活性化、人材の育成、自治体と市民とのコーディネートをするなど、さまざまな役割をもって地域の未来をデザインし、まちをプロデュースする“まちづくりのプロフェッショナル”を育成します。

#### 1. 開講概要

研修名称	地域プロデューサー育成塾
日程	第1回 2月16日(木) 第2回 3月7日(水) 第3回 4月19日(木) 第4回 5月17日(木) 第5回 6月28日(木) 第6回 9月26日(水) 時間 各講座 13:00~17:00
場所	・日本青年会議所会館 5F 東京都千代田区平河町2-14-3
スタイル	・「講義」、「グループワーク」、「フィールドワーク」で構成
受講生	・一般・行政関係者・NPO関係者・他・各地青年会議所メンバー
研修費用	・全6回 18,000円(テキスト代含む)
主催	・公益社団法人 日本青年会議所

#### 2. 研修概要

研修内容	・講義やワークショップを通し、まちづくりについて入門編から応用編まで一通り学び、地域ビジョンを描く。
研修目標・狙い	・まちづくりの理念や手法を学び、地域の未来を創造する「地域プロデューサー」の育成

#### 3. 主な講師陣

木村 俊昭 氏 内閣官房地域活性化伝道師(塾長)

朝比奈 一郎 氏 青山社中株式会社筆頭代表・CEO

清成 忠男 氏 法政大学経営学部名誉教授兼学事顧問

藻谷 浩介 氏 日本政策投資銀行参事役

豊重 哲郎 氏 鹿屋市串良町柳谷公民館長

池田 真紀 氏 ヒューマンハーバー・AI代表 地域活性化総合研究会代表

#### 4. テキスト

- ・講師より必要に応じて資料を配付し用いる。

#### 5. 実施カリキュラム・スケジュール・詳細

日程	内容/講師
<p>【第1回】 2月16日 (木)</p>	<p><b>「地域活性化とは何か？」</b></p> <p>木村 俊昭 氏 内閣官房地域活性化伝道師、朝比奈 一郎 氏 青山社中株式会社筆頭代表・CEO</p> <p>■「何をもって地域が活性化したといえるのかを再考」先進的な事例、及び従来の活動の失敗例を交えながら、眼前にある課題意識から簡単に解決策を発想するのではなく、データ・情報を収集・分析することによって、問題の全体像を理解したうえで、地域の全体最適につながる施策を導き出す必要性を理解します。</p> <p>■「部分個別最適から全体最適へ」地域の抱える課題と、顕在的・潜在的にもつ資源を多面的に、かつ要素間の関係を含めて理解します。そのためにも、どのような基礎的データを収集し、分析していくのかその枠組みを学びます。</p>
<p>【第2回】 3月7日 (水)</p>	<p><b>「地域活性化の変遷」</b></p> <p>木村 俊昭 氏 内閣官房地域活性化伝道師、清成 忠男 氏 法政大学経営学部名誉教授兼学事顧問</p> <p>■「まちづくり、ひとづくりのこれまで、これからを学ぶ」日本における地域活性化の歴史を学び、運動やその主体の広がり、背景と理論的枠組みの変遷を理解することによって、自らがもつ課題意識と考えがちな解決策について、客観的に理解することをめざします。地域活性化が経済活動や集客活動を含む場合、必ず消費者の特性をつかみ、その動向を予測する必要があります。本講では、その概略を学び、新たな地域活性化策を検討する際に、その妥当性を理解する手がかりを得ます。過去の事例に基づきまちづくりを検証し地域をプロデュースする人材の必要性を認識しひとづくりはまちづくりである重要性を分析します。</p>
<p>【第3回】 4月19日 (木)</p>	<p><b>「地域活性化の戦略の考え方」</b></p> <p>藁谷 浩介 氏 日本政策投資銀行参事役</p> <p>■「まちづくり、ひとづくりの戦略の立て方、ポイント」地域独特の文化力を活かし、感性価値を創出することこそが、地域に誇りと富をもたらします。地域の文化力が高ければ高い可能性とその発揮手法について学び、また前半3回を通して学んだ課題の分析手法を活用し、自らの地域の問題と資源と資本の全体像と要素の関わり合いを互いに発表します。</p>
<p>【第4回】 5月17日 (木)</p>	<p><b>「地域活性化事例研究」</b></p> <p>豊重 哲郎 氏 鹿屋市串良町柳谷公民館長</p> <p>■「企画実現の課題、継続進化の秘訣。成功、失敗事例を学ぶ」前半3回を通して把握した問題の全体像、資源と資本の全体像をもって、地域の全体最適をめざす企画書をいかに作成していくか、その基礎を学びます。■「地域で稼ぐしくみづくりを考える」地域で稼ぐしくみづくりを考察。豊富なアイデアはどこから生まれてくるのか。発想するための情報活用術、グループでの発想手法、決定手法などを学ぶことによって、一人では近視眼的に陥りがちな</p>

	アイデアを広げる手法を学びます。
<p>【第5回】 6月28日 (木)</p>	<p><b>「グループ討議」</b> 池田 真紀 氏 ヒューマンハーバー・AI代表 地域活性化総合研究会代表</p> <p>■「対話、プレゼンテーションの秘訣、企画書の作成を学ぶ」せっかくいい企画があっても、対話、プレゼンテーションが上手くできなければ、運動の成功はありません。人々をいかに上手く巻き込むかが焦点となります。プロデューサーが孤立することなく、お互いに切磋琢磨しながらネットワークを構築し、新しい取り組みを継続的に生み出し続ける手法を学びます。そのことにより、全6回のコースで培ったネットワークを継続的に維持発展していくことの重要性も感じていただけます。またワークショップをワールドカフェの活用でアイデアを創出させます。</p>
<p>【第6回】 9月26日 (水)</p>	<p><b>「成果報告会」</b> 木村 俊昭 氏 内閣官房地域活性化伝道師</p> <p>■「実現し得るプランを発表。地域モデルづくりの実践」作成した企画書を発表し、お互いにアドバイスをしあうことによって、企画力を養います。また、グループから1組ずつは、全体発表もしていただき、学びを共有すると共に、コメンテーターによるご指導をいただきます。</p> <p>■「基調講演」真に実行力をもちえる参加者だからこそ、一歩ひいて分析し、全体最適を考える力を養うことによって、地域活性化により高い効果をもつことができる。あらためて、6回の学びを振り返り、文化力をもって明るく元気な地域を実現する必要性を学びます。</p>

#### 4. はちおうじ志民塾専門過程「コミュニティビジネスコース」

はちおうじ志民塾の専門過程は、受講生が基礎課程を通じて見出した夢に向かい、より実践的な知識・スキルを身に着けることを目的として「コミュニティビジネスコース」と「地域活動実践コース」、「創業コース」を実施している。本稿では、地域の様々な課題を解決する事業や、地域資源を活用した事業（コミュニティビジネス）について、地域課題の洗い出しの手法などの基礎・実践例を学ぶコミュニティビジネスコースについてまとめている。

### 1. 開講概要

研修名称	はちおうじ志民塾専門過程「コミュニティビジネスコース」
日程	・平成24年9月19日（水）～平成24年12月12日（水）全9回
場所	・エイビットスクエア（八王子市南町3-10エイビット南町ビル）
スタイル	・「講義」、「ワークショップ」、「個人ワーク」
受講生	・市内在住・在勤でアクティブセカンドを目指す意欲あふれる概ね50歳以上の方
研修費用	・15,000円
主催	・八王子市協働推進課（主催） ・特定非営利活動法人 コミュニティビジネスサポートセンター（運営）

### 2. 研修概要

研修内容	コミュニティビジネスを起業するにあたり、基本的な考え方や必要な知識を身に着けるため、各地の成功事例を交えた講義を行う。また、事業計画作成のためのワークを行いながら、地域課題解決のための、グループ分けをし、グループごとで、事業計画をブラッシュアップした後最終回では、事業計画発表会を開催。
研修目標・狙い	・社会の様々な問題を解決する事業、または、地域資源を活用した事業（コミュニティビジネス）を起業する「社会起業家」を育成する。 ・地域課題の洗い出しじゅほうや、コミュニティビジネスの経営ノウハウ、法務や税に関する知識などを学ぶとともに、八王子の地域資源探し、ワークショップなど実践的なカリキュラムを通じ、事業化に向けた実現可能な事業計画を立案することが目標。

### 3. 主な講師陣

永沢映 NPO法人コミュニティビジネスサポートセンター 代表理事
講師（9/5,9/19,9/26,10/3,10/17,10/31,12/12）
商学部卒業。会社経営（環境ビジネス）とNPO活動（青少年育成）の経験を踏まえ、2000年より、コミュニティビジネス支援の活動を開始。2002年に当会をNPO法人化し、2005年より代表理事。「行政・NPO・企業」の三位一体の関係づくりのパイプ役として、現場と一緒にNPOや企業、

行政の中間支援、コーディネートを行う。広域関東圏コミュニティビジネス推進協議会代表幹事、創業支援施設インキュベーションマネージャー、一般社団法人ソーシャルビジネスネットワーク常務理事などを務める。

竹内 千寿恵 NPO 法人 Mystyle@こだいら 代表理事

講師 (10/10)

大学卒業後、教育出版社で編集に従事。結婚後、転勤生活。出産、子育てを通じて、核家族に与った地域ネットワークの重要性を実感。小平氏に居を構えて後、複数の NPO で事務局を務める傍ら、地元小平市において、地域ポータルサイト「こだいらネット」立ち上げに参画。市民サポーターの組織化、取りまとめ、サイト運営管理を担当。2006年11月 NPO 法人 Mystyle@こだいら を設立。広域関東圏コミュニティビジネス推進協議会漢字などを務める。

原 賢治 フォワードグッド代表

講師 (10/24,11/7,12/12)

中小企業診断士。コミュニティビジネスアドバイザー、第1種衛生管理者。百貨店、社会福祉法人の勤務を経て、コンサルタントとして活躍中。ソーシャルビジネス、小売業・介護事業の支援を得意とする。財団法人東京都中小企業振興公社組合相談員、財団法人横須賀市産業振興財団創業アドバイザー。

田尻 冴子 NPO 法人コミュニティビジネスサポーターセンター 事務局長補佐

立ち合い (全回)

2010年より世田谷区で自閉症の家庭や渋谷区のごどもの城でボランティア活動を始めたなかで、市民活動について興味をもつ。2010年 NPO 法人コミュニティビジネスサポートセンター入社。約2年、内閣府地域社会雇用創造事業担当として、起業支援に関わる。コミュニティビジネスアドバイザー、コミュニティビジネスコーディネーター。

#### 4. テキスト

- ・各講師が適宜資料を配布。



## 5. 実施カリキュラム・スケジュール

回	日程	カリキュラム
1	9/5(水)	ガイダンス
2	9/19(水)	事例から学ぶコミュニティビジネス
3	9/26(水)	八王子の地域資源、地域課題を発見するワークショップ
4	10/3(水)	創業に必要なリソースについて①(法人登記、税務)
5	10/10(水)	創業に必要なリソースについて②(ネットワークづくり)
6	10/17(水)	創業に必要なリソースについて③(マーケティング)
7	10/24(水)	事業計画ワークショップ
8	10/31(水)	地域課題解決のグループ分け(この指とまれのグループ)
9	11/7(水)	事業計画の検討
10	12/12(水)	事業計画の検討発表&個別アドバイス
11	12/15(水)	卒塾式

## 6. カリキュラム詳細

第1回 9/5(水) 19:00~21:00
ガイダンス
専門課程開催に当たり、コミュニティビジネスコースと地域活動実践コースの概要を直接受講生に説明する機会を設け、専門課程の実施内容と目的を知る機会とする。
第2回 9/19(水) 19:00~21:00
事例から学ぶコミュニティビジネス
コミュニティビジネスの事例をDVDを含めて4件(「マイファーム」、「島原健康半島構想」、「たてやまコミュニティビジネス研究会」、「NPO 法人 ACOBA」)の事例を紹介。成功事例を通じて、コミュニティビジネスに大事なポイントは何かを学ぶ。
第3回 9/26(水) 19:00~21:00
八王子の地域資源、地域課題を発見するワークショップ
自分自身が関心のある分野(食・農、高齢者支援、芸術・スポーツ・文化など)を選んで、グループに分かれ、それぞれのグループごとで八王子の地域課題や地域資源を発見するディスカッションを行った後、発表。
第4回 10/3(水) 19:00~21:00
創業に必要なリソースについて①(法人登記、税務)

グループディスカッションから、1歩進み、組織として立ち上げるとき、どんな組織が想定できるか(法人格)などをアウトプット。その後、最終回にはそのグループで発表することを前提に、これから取り組んでいく事業計画のグループに分かれ議論を行う。
第5回 10/10(水) 19:00~21:00
創業に必要なリソースについて②(ネットワークづくり)
小平市で活動する Mystyle@こだいら代表理事の竹内氏を迎え、自身が活動を開始するにあたりどのような方法でネットワークを築いたのかを体験を元に講演。地域でのネットワークづくりのポイントをグループトークを交えながら学ぶ。
第6回 10/17(水) 19:00~21:00
創業に必要なリソースについて③(マーケティング)
港南台タウンカフェの事例を参考に、創業に必要なリソース③マーケティングとして事業=お金の部分を中心に考える。「何を、いくらで、誰に対して提供するのか」「地域課題、事業内容、成果」の2点を考えることで、事業計画の概要が見えてくる。
第7回 10/24(水) 19:00~21:00
事業計画ワークショップ
事業計画は何のために作るのか、何をポイントに考えればいいのかという講義を行ったのち、実際に計画を立てるグループワークを通じ、それぞれのグループの事業を具体的に書面にまとめる作業を実施。
第8回 10/31(水) 19:00~21:00
地域課題解決のグループ分け(この指とまれグループ)
これまで同じグループ内で議論を行ってきたが、この回では、他のグループのメンバーの視点と意見を取り入れることで、事業の弱み、強みなどを洗い出すワークを実施。
第9回 11/7(水) 19:00~21:00
事業計画の検討
事業計画で一番頭を悩ませる資金調達、および収支についてのポイントを整理し、1カ月後の発表に向けて実現可能な事業プランになることを目指して計画のブラッシュアップと進捗状況の発表を実施。
第10回 12/12(水) 19:00~21:00
事業計画の検討発表&個別アドバイス
各グループで検討を進めてきたコミュニティビジネスの事業プランの発表を行い、講師や受講生の意見を収集して、更なるブラッシュアップにつなげた。
第11回 12/15(水)
卒塾式



## ■手引き充実のための事例調査

### 事例5. 筑波学院大学オフ・キャンパス・プログラム (OCP) (地域活性化システム論)

オフ・キャンパス・プログラムは、筑波学院大学の目標である「社会力」を育てる為に、学生が一人の市民として様々な市民活動団体や NPO 法人の活動に参画し、市民とともに様々な活動を体験するプログラムです。そこで、学生は多様な人々との協働を経験し、社会派どのように動き、どのように運営されるのかを学んでいきます。

## 1. 開講概要

研修名称	筑波学院大学オフ・キャンパス・プログラム (平成24年度プログラム)
日程	・1年生:「実践科目A」(必修) 1講義90分×前・後期各15回 ・2年生:「実践科目B」(必修) 1つの市民団体で30時間以上の活動に従事 ・3年生:「実践科目C」(選択) 自ら企画・実践した社会活動に60時間以上従事
場所	・筑波学院大学およびつくば市周辺
スタイル	・「講義」、「グループワーク」、「社会活動の実践」等で構成
受講生	・筑波学院大学生
研修費用	・筑波学院大学授業料による
主催	・筑波学院大学

## 2. 研修概要

研修内容	・1年生は「実践科目A」(必修)で地域の方たちとのかかわりを体験し、2年生は「実践科目B」(必修)で市民の一員として地域での様々な活動に積極的に参画する。3年生では、「実践科目C」(選択)で自ら活動を企画・運営することで、社会力の一層の強化を図る。
研修目標・狙い	・1年生から3年生まで、「社会力」をキーワードにした活動を行い、社会の一員として、よりよい「市民」として、活動できる力を身に付けることを目指す。 ・「つくば市をキャンパスに」、大学お外をより広い実践的な学びの場として飛び出すことで、社会の仕組みを実感、体験、理解すると共に、幅広い人間関係を築く。

## 3. 主な講師陣

### 「実践科目A」

#### ●担当教員

・グループ① 金久保紀子、横瀬弘幸、・グループ② 井桁碧、佐野司、・グループ③ 亀田千里、小松進

#### ●社会力コーディネーター

武田直樹

「実践科目 B」

●担当教員

井桁碧、金久保紀子、亀田千里、小松進、佐野司、横瀬弘幸

●社会力コーディネーター

武田直樹

「実践科目 C」

●担当教員

小野沢ニッタヤ、金久保紀子、亀田千里、吉田俊純

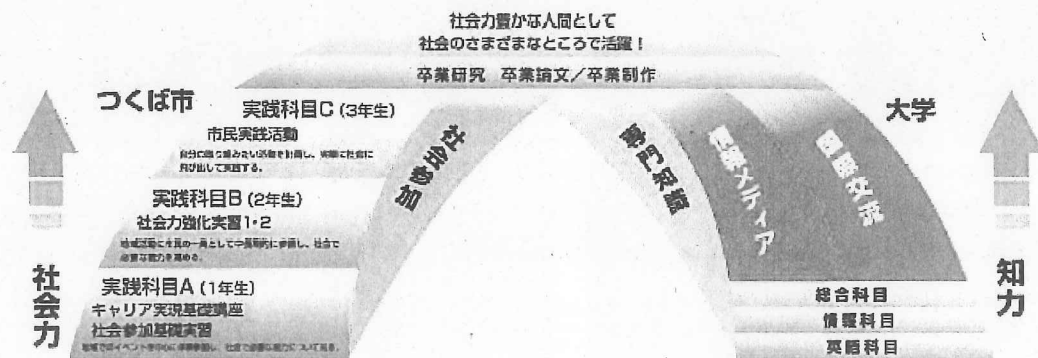
●社会力コーディネーター

武田直樹

4. テキスト

- ・①OCP ハンドブック ②その他、必要に応じてプリント等を配付し用いる。

5. 実施カリキュラム・スケジュール



## 6. カリキュラム詳細

### <前期>

NO.	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ポートフォリオの説明・指導、社会参加活動の説明
2	履修システムの指導	学生支援課の指導による
3~5	図書館オリエンテーション 学生アセスメント	図書館オリエンテーション以外のグループは、学生アセスメント
6	ハラスメント講習会	体験型研修
7・8	学園祭話し合い①、②	KVA 祭の意義確認
9	社会参加活動オリエンテーション & ミニシンポジウム	
10	ミニシンポジウムの振り返り、つくば市について(外部講師講座①)	
11	つくば市を知ろう	つくば市探索
12	コミュニケーションスキル	社会参加活動で必要なスキルを中心に
13・14	インタビュー活動	学内でインタビューをしてくるグループ活動
15	前期まとめ	

### <後期>

NO.	テーマ	内容
1	オリエンテーション	後期の目標確認
2	先輩の記事(常陽新聞)を読む	
3	学園祭準備	
4	団体調べ	ワークシートの利用・提出
5	外部講師講座②	コミュニケーションワーク
6	話し合い A	意見を出し合うことになれる
7	話し合い B	大学以降のキャリアを考えるグループディスカッション
8	大学生活とキャリアプラン	
9	外部講師講座③	「社会力」について
10~12	グループ内発表	体験型社会参加活動の成果発表
13・14	学年報告会	実践科目 A 学年報告会参加

		実践科目 B 学年報告会参加
15	まとめ・ファイル提出・最終レポート	

<前期>

NO.	テーマ	活動実践の手続き
1	オリエンテーション	情報収集
2	受入団体合同説明会	
3	活動申請ガイダンス&希望調査票提出	
4	個別相談(希望者)	
5	申し込み締め切り	
6	学内ガイダンス	希望調査票の提出
7~15	受け入れ団体・学生・社会力コーディネーターで三者面談、活動申請団体に関する事前学習、活動開始	活動団体選択・申込み

<後期>

NO.	テーマ	活動実践の手続き
	夏季休業	三者面談
1	オリエンテーション	
2~5	学生、担当教員、社会力コーディネーターで中間振り返りの面談を行う	受け入れ先の決定
6	報告会に関する説明	活動の実施
7.8	最終レポート作成 報告会用 PPT 作成	
9~12	グループ内報告会 最終評価に関する説明 学年報告会準備	活動中間での振り返り
13	学年報告会	報告
14	実践 C 学年報告会見学、又はビデオ視聴	
15	まとめ・ファイル提出・最終レポート提出	

<前期>

NO.	テーマ	活動実践の手続き
1	オリエンテーション	企画の立案と提出
2	事例研究	
3	活動内容(企画)の検討	
4	企画書の締め切り	
5	スタジオジブリ イベント企画室長による講義	
6	内閣府「国の地域活性化に関する政策説明」講義	
	個別に教員とのやり取り 個別の企画の実施	企画に関するやり取り
7~15	中間ふりかえり	

<後期>

NO.	テーマ	活動実践の手続き
	夏季休業	企画の実行とスケジュール管理
1	進捗情報管理	
2~5	個別活動	受け入れ先の決定
6	報告会準備	活動の実施
9~12	内部報告会	活動中間での振り返り
13	学年報告会リハーサル	報告
14	学年報告会	
15	OCP のふりかえり	

## 手引きの充実・強化のための調査先一覧

NO	調査先候補	対象	運営主体	期間等	スタイル	ページ
1	鯖江市地域活性化プラン コンテスト	大学生	鯖江市地域活性化ブ ランコンテスト実行委 員会	2泊3日	ガイドス、市民、市関係者 の方へインタビュー&リ サーチ、プランニング	P1-3
2	えがおつなげて「農村イン ターンシップ」	地域活性化を めざす人	NPO法人えがおつな げて	-	インターンシップ	P4-10
3	丸の内朝大学「地域プロ デューサークラス」	主に丸の内周 辺に勤務する ビジネスパー ソン	丸の内朝大学企画委 員会	全8回(60 分)	講義、フィールドワーク	P11-13
4	海士町版白熱教室-集落 支援員養成講座-	海士町職員、 集落支援員、 地域おこし協 力隊員	海士町・studio-L	1週間	講義と現地での地域支援 の実践	P14-18





## 1. 鯖江市地域活性化プランコンテスト

鯖江市地域活性化プランコンテストは、全国から学生を集め、選考を通過した 24 名の学生が鯖江に集い 2 泊 3 日の合宿形式で開催。キャッチコピーは「市長をやりませんか?」。市長の講義や市内各地で聞き込み調査を行いながら、鯖江を良くするためのプランを考え、最終日には市長をはじめとする市民の前で、プレゼンテーションを行う。発表されたプランは、鯖江市役所にてプランの具体化について検討を行い、過去には実際に採用されたプランもある。

### 1. 開講概要

研修名称	鯖江市地域活性化プランコンテスト
日程	・例年 9 月の第 2 土・日・月（2 泊 3 日）で開催。 ・実行委員会を 4 月に発足し、5 月にホームページにて公開。7 月より、エントリー受付と選考を開始する。
場所	・鯖江市 本山誠照寺ほか市内各所
スタイル	・「講義」、「ワークショップ」、「交流会」、「中間報告会」、「決勝プレゼンテーション」で構成。
受講生	・地域活性化に関して関心・意欲ある大学生
研修費用	・無料（交通費等実費は自己負担）
主催	・鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会 (地元学生、鯖江市役所、観光協会、商工会議所、商店街、地元企業等で構成)

### 2. 研修概要

研修内容	・実際のケース教材を用いた戦略的意思決定や論理的思考の養成と、発表によるプレゼンテーションの訓練。 ・塾生は、事前にケース教材を分析し、設問に応じて自分の考えをまとめ、当日にディスカッションを通じた発表。
研修目標・狙い	・鯖江市を活性化させる一つのきっかけとし、地域活性化の新しい取組の先駆けとなることを目指す。 ・鯖江市の産業、伝統、取組の社会認知の深化。 ・県内外の学生に対して、地域活性化の可能性を考えさせる機会と経験を与える。 ・地域の人と、学生たちとの交流の機会を創る。

### 3. 主な講師陣

- ・牧野百男（鯖江市 市長）
- ・メンター（過去参加学生）
- ・実行委員会の地元メンバー 他

#### 4. テキスト

- ・講義資料等適宜配布

#### 5. 実施カリキュラム・スケジュール

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	
1日目						ガイダンス	講義			チームごとに自由行動		交流会				
2日目	誠一・ご縁市						チームごとに自由行動						中間報告会			
3日目			プランニング				決勝プレゼンテーション									

#### 6. カリキュラム詳細

##### <講義・ワークショップ>

講師：メンター「プラン作成について」（30分）

講師：牧野市長「鯖江市について」（60分）、質疑応答（30分）

##### <交流会>

まちづくり活動を行っている市民、経営者、市職員、市会議員をお呼びし、ヒヤリングの場にもなっている。

##### <中間報告会>

各チームがアドバイザー、メンター、実行委員会の地元メンバーにプレゼンし、アドバイスを受ける。

##### <決勝プレゼンテーション>

1チームプレゼン8分、質疑応答5分、審査員5名。

最優秀賞1チーム、優秀賞2チーム、オーディエンス賞1チーム。

## 7. 本講座のポイント

### ■意識の高い参加者の募集・選考

地域活性化に興味があり、「リーダー」を志向し、論理的思考能力とコミュニケーション能力に優れた、次世代のオピニオンリーダーとなる学生に参加してもらうために、書類や面接等参加者の選考を重視している。意識の高い学生が参加することで、地元の学生も刺激を受けるといった好循環が生まれている。

### ■コンテスト実施の効果

県外で鯖江市のことが発信され、鯖江の知名度が上がっている。

行政・国政に興味を持ち、総務省、経済産業省などの省庁に内定、就職する学生が出てきている。

過去参加学生が、その後の実現プランやプランコンテストにスタッフとして再び鯖江に来てくれている。

### ■プラン実現へのこだわり

机上の空論で終わらせるのではなく、その場で実現性について地域の方々にフィードバックをもらうことができる鯖江市地域活性化プランコンテスト。

さらに、行政にて具現化に向けて検討市、その結果を公開。

企画財政課で各課に振り分け、担当課にて検討。どの内容が採択され、どのように活かしていくのか、詳細を記載し、ウェブ上に公開。自分たちのプランが時間をかけて協議され、結果が公開されるため、学生たちの意欲を高めている。

第1回提案プランの「めがねギネス」を3年越しで実現。提案した東京の学生と地元の学生（学生団体 with）、眼鏡産業界、市民が協働し開催。2万本以上の眼鏡を集め、2011m めがねを並べるというギネス世界記録を達成。

### ■アドバイザー・メンターについて

過去参加学生で能力の高いOB・OGにメンターとして参加してもらい、プランの質を高めることに注力。また、大手民間企業の方がボランティア休暇をとってアドバイザーとしてさんっ隠し、エントリー時の書類選考も協力いただいている。

### ■参加学生の受け入れ態勢

鯖江市地域活性化プランコンテスト実行委員会は、地元の学生、観光協会、商店街、商工会議所、市役所、地元企業等多様なステークホルダーで構成されている。さらに、土・日に開催されている地元のイベントと組み合わせることで、相乗効果を生み出している。

事例2. えがおつなげて「農村インターンシップ」農村都市交流マネジメントスキル習得コース  
一定期間農村等の中で研修を受講し、自分の将来に関連のある就業体験を行うことに興味のある方を対象に、農村インターンシップの機会を提供。関東圏10拠点（北杜、南アルプス、富士川、勝沼、飯島、小諸、小川、那須、里美、千葉）でさまざまなプログラムを構築。農山村活性化に必要な人材育成を行う「農村都市交流マネジメントスキル習得型コース」のほか、現代の農家を体験できる3コースの計4コースを設定。平成22年度、23年度内閣府地域社会雇用創造事業。

## 1. 開講概要

研修名称	えがお大学院「農村インターンコース」
日程	第1期：平成22年9月～平成22年12月 第2期：平成23年2月～平成23年12月
場所	・関東圏10拠点（北杜、南アルプス、富士川、勝沼、飯島、小諸、小川、那須、里美、千葉）
スタイル	・インターンシップ
受講生	・日本国籍を有する18歳以上の方。 ・年収200万円以下他条件有
研修費用	・研修を完了した期間の宿泊費、研修開始と終了時の往復の交通費が支援される。また、要件を満たす研修生には、特別活動支援金が支給される。
主催	・特定非営利活動法人えがおつなげて(実施主体) (内閣府地域社会雇用創造事業の一環)

## 2. 研修概要

研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型+持続可能型農業の実践や、商品の生産・販売など、関東圏10拠点（北杜、南アルプス、富士川、勝沼、飯島、小諸、小川、那須、里美、千葉）の地域特性、受け入れ先の取り組み内容に応じてプログラムを構成。</li> <li>・各インターン地域の実施プログラムに基づいて、それぞれ実働30日間（延べ約6週間）のインターンを実施。</li> </ul>
研修目標・狙い	地域社会における事業と雇用を加速的に創造することを目的とし、関東圏内10地域の人材育成の場を活用して、農村インターン生の研修を行って人材の育成と雇用の創出を図る。

### 3. 主な講師陣

#### コーディネーター

- ・曾根原 久司（特定非営利活動法人えがおつなげて代表理事）
- ・小野隆（NPO南アルプスファームフィールドトリップ理事長）
- ・長澤 利久（特定非営利活動法人 富士川・夢・未来 理事長）
- ・三森 斉（農業生産法人ぶどうばたけ代表）
- ・小林 雄一（農業生産法人代表）
- ・切本 幸男（一般社団法人 小諸エコビレッジ設立理事）
- ・高橋 優子（NPO生活工房つばさ・游理事長）
- ・内藤 弘（アマタ(株)循環社会センター副センター長）
- ・白石 智洋（元道の駅さとみ駅長。NPO法人遊楽 理事長）
- ・石川 直子（(株)千葉農産福祉部）

### 4. テキスト

- ・プログラムに応じて適宜配布

### 5. 実施カリキュラム・スケジュール

場所/受け入れ先	受け入れ期間
①北杜キャンパス 山梨県 北杜市 /NPO 法人えがおつ なげて「えがおファ ーム」	農村生活体験型(短期集中):実働 30 日間 2010 年 12 月 1 日～2011 年 3 月 31 日の間。応相談。 実習 29 日、座学 1 日予定(天候等により対応)
②南アルプスキャン パス 山梨県 南アルプス 市/NPO法人南アル プスファームフィール ドトリップ	農業等スキル習得型:実働 6ヶ月 2010 年 12 月 1 日～2011 年 6 月 30 日 実習 170 日、座学 10 日予定(天候等により対応)



<p>③富士川キャンパス 山梨県 富士川町/ 癒しの宿 古民家お おくぼ</p>	<p>農村生活体験型(短期集中):実働 30 日間 2010 年 12 月 1 日～2011 年 3 月 31 日の間。応相談。 農村体験型(通年):10 日間 X3 回 ・2010年12月5日～2011 年4月5日 ・2011 年1月15日～1月30日 ・2011 年2月20日～4月10日 実習 29 日、座学 1 日予定(天候等により対応)</p>
<p>④勝沼キャンパス 山梨県 甲州市/ (有)ぶどうばたけ</p>	<p>農業等スキル習得型:実働 6 ヶ月 2010 年 12 月 1 日～2011 年 6 月 30 日 実習 170 日、座学 10 日予定(天候等により対応)</p>
<p>⑤飯島キャンパス 長野県上伊那郡飯 島町/4法人で共同 して受入</p>	<p>2010 年 12 月 1 日～2011 年 2 月スタートで以下の中から期間とプログラムを選 ぶ ①農業等スキル習得型:実働 6 ヶ月 ②農村生活体験型(短期集中):実働 30 日間 ③農村体験型(通年):10 日間 X3 回 実習 170 日、座学 10 日予定(天候等により対応)</p>
<p>⑥小諸キャンパス 長野県 小諸市/小 諸バイオ・ファーム</p>	<p>①農業等スキル習得型:実働 6 ヶ月 2010 年 12 月 1 日～2011 年 6 月 30 日 ③農村体験型(通年):実働5日間 X6回 2011 年 1 月 7 日～8 月 10 日 実習 170 日、座学 10 日・ 実習 29 日、座学 1 日・予定(天候等により対応)</p>
<p>⑦小川キャンパス 埼玉県 小川町/霧 里農場</p>	<p>②農村生活体験型(短期集中):実働 30 日間 2010 年 12 月 1 日～2011 年 3 月 31 日の間。応相談。 実習 29 日、座学 1 日予定(天候等により対応)</p>
<p>⑧那須キャンパス 栃木県 那須町/ア ミタ 森林ノ牧場 那 須</p>	<p>①農業等スキル習得型:実働 6 ヶ月 2010 年 12 月 1 日～2011 年 6 月 30 日 実習 170 日、座学 10 日予定(天候等により対応)</p>

<p>⑨里美キャンパス 茨城県 常陸太田市 /NPO法人遊楽</p>	<p>③農村体験型(通年):11回 2011年1月15日～11月30日 ①1月15日(土)・16日(日):鳥追い参加、地域視察、畑整地 ②2月(2泊3日):フィールドワーク&amp;座学(里美地域里川地区の概要) ③3月(2泊3日):農業研修(畑整理) ④4月(2泊3日):フィールドワーク(花見手伝い)・農業研修(田越し&amp;代掻き) ⑤5月(2泊3日):農業研修(田植え、かぼちゃ苗づくり) ⑥6月(2泊3日):農業研修(かぼちゃ苗植え) ⑦7月(1泊2日):座学(地域振興:地域マネジメント概論) ⑧8月(2泊3日):農業研修(畑・田:雑草とり) ⑨9月(2泊3日):農業研修(畑・田:雑草とり) ⑩10月(2泊3日):農業研修(かぼちゃ収穫&amp;稲刈り) 11月(1泊2日):農業研修(加工品づくり)&amp;WS(インターンの成果)</p>
<p>⑩千葉キャンパス 千葉県 富津市/ (株)千葉農産</p>	<p>2010年12月1日～2011年2月スタートで以下の中から期間とプログラムを選ぶ ①農業等スキル習得型:実働6ヶ月 ②農村生活体験型(短期集中):実働30日間 ③農村体験型(通年):10日間X3回 実習170日、座学10日・ 実習29日、座学1日・予定(天候等により対応)</p>

6. カリキュラム詳細

場所/受け入れ先	受け入れ先概要	研修内容
<p>①北杜キャンパス 山梨県 北杜市 /NPO 法人えがお つなげて「えがお ファーム」</p>	<p>NPO法人えがおつなげての直営農場「えがおファーム」。米、大豆、小麦等の穀物に加え、特産品花豆を中心とした作物を農薬や化学肥料を使用せずに栽培。またツーリズム受入や企業連携にも取り組んでいる。</p>	<p>「あなたの農業適正は？」 農業をやりたいのだけれど、自分に向いているかしら？不安は当然、まずは短期実践！  圃場の後始末、ツーリズムの受入、加工品開発、春からの農作業開始準備など</p>



<p>②南アルプスキャンパス 山梨県 南アルプス市/NPO法人南アルプスファームフィールドトリップ</p>	<p>南アルプス山麓に広がる、果樹生産地域。さくらんぼ・もも・すもも・ぶどうなど四季を通じた生産とNPOでのグリーンツーリズム受け入れ、農産物の加工・販売を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落葉果樹栽培の技術を学びながら、農のファシリテート能力を磨く</li> <li>・農業経営のポイントを学び、ビジネスモデルをつかむ</li> <li>・農作業のポイントと農を生かした販売戦略を学ぶ</li> </ul>
<p>③富士川キャンパス 山梨県 富士川町/癒しの宿 古民家おおくぼ</p>	<p>山梨県峡南地域(富士川町、市川三郷町、早川町、身延町、南部町)の地域活性化を目的に、地域間連携等を実施している。えがおつなげてやまなし企業ファームチーム「えべし峡南」受入団体。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身延町しか生産されないとされる「曙大豆」の収穫と、収穫後のトラクターによる耕起。</li> <li>・ツーリズム味噌作りの受け入れと指導(バス1台40名予定)</li> <li>・花芽収穫、袋詰め、配達袋詰め</li> </ul>
<p>④勝沼キャンパス 山梨県 甲州市/(有)ぶどうばたけ</p>	<p>ぶどうの農業生産法人で、ぶどう栽培全般の指導が行える。3.6ha40種類以上のぶどうを生産、同地内にワインの醸造場菱山中央醸造(有)がある。また都会との連携や耕作放棄地への取組もはじめている。</p>	<p>ブドウ栽培の一連の作業を行い基礎を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹農作業+ワイン仕込み</li> <li>・野菜収穫</li> </ul> <p>他東京での試食販売やツーリズム受入</p>
<p>⑤飯島キャンパス 長野県上伊那郡飯島町/4法人で共同して受入</p>	<p>それぞれ特色ある農業をおこなっている4法人が連携し農業従事者をめざす人を受け入れている。</p> <p>(有)本郷農園サービス (株)いいじま農産 (株)田切農産 (有)水緑里(みどり)七久保</p>	<p>長期・短期にしる、下記研修内容から選択が出来ます。1作業が8時間単位とはならない場合があるので、他作業との組合せになります。したがって、1法人で全て受入れるのではなく各法人の作業と組み合わせます。</p> <p>全ての品目の研修は出来ませんが、かなり高度な技術取得ができます。希望があれば、大型特殊免許の取得時間を設定します。</p> <p>免許取得後、作業技術の講習を行います。</p> <p>講義は、各作業の中で同時進行としますが、雨天等で時間があれば希望により随時行います。</p> <p>通年、田切農産直売所の運営、6次産業化の補助研修。</p>

<p>⑥小諸キャンパス 長野県 小諸市/ 小諸ビオ・ファーム</p>	<p>オーガニックコットンの栽培から製品造り販売を一貫して行っている。また有機栽培農業や耕作放棄地解消の取組へもトライアルをはじめている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イチゴの栽培収穫・果樹類の剪定春への準備・綿花の播種栽培過程・オーガニックコットン製品の生産～販売迄一貫して学べる・梅の収穫加工・大豆の栽培収穫加工(味噌・豆腐)・蕎麦の栽培収穫加工(蕎麦打ち)</li> <li>・冬場の農業体験(ハウス・間伐・果樹の剪定)春の種まき・夏の手入れ・収穫野菜で郷土料理実習</li> </ul>
<p>⑦小川キャンパス 埼玉県 小川町/ 霧里農場</p>	<p>埼玉県西部地区にある人口3万人、池袋から電車で70分余りの周囲を山に囲まれた里山。有機農業と自然エネルギーの町として有名。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修と農場概要ガイダンス</li> <li>・農作業体験</li> <li>・有機農産物6次産業化研修</li> </ul>
<p>⑧那須キャンパス 栃木県 那須町/ アマタ 森林ノ牧場 那須</p>	<p>牛の力で荒廃する森林を再生させながら乳製品を産み出す森林酪農を行うとともに、耕作放棄地等で大豆、小麦、雑穀の無農薬栽培を行っている。</p>	<p>森林酪農のほか、小麦の収穫、雑穀・大豆の播種から収穫、牧場カフェでの接客を徹底的に指導する・森林酪農についての講習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・搾乳、給餌、清掃の補助</li> <li>・牧場＝森の整備</li> <li>・雑穀についての講習</li> <li>・雑穀の収穫・脱穀・調整などの農作業実習</li> </ul>
<p>⑨里美キャンパス 茨城県 常陸太田市/ NPO法人遊楽</p>	<p>古民家を再生し、都市と地域の交流の場として、地域資源、有給資源を活用しながら宿泊や田舎体験プログラムを提供して、地域活性活動を行なっている。2008年総務大臣賞を受賞。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業実習</li> <li>・遊休農地の調査</li> <li>・地域野菜の掘り出し</li> <li>・野菜販売状況調査</li> <li>・農作物加工調査</li> <li>・販売先調査</li> <li>・作付け計画</li> <li>・販売計画、農業経営計画</li> </ul>
<p>⑩千葉キャンパス 千葉県 富津市/ (株)千葉農産</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地の復旧作業(現在、耕作面積:約100ha)</li> <li>・障害者の農業への就労</li> <li>・精神:5名 知的:2名 身体:3名が就労している。(トライアル・ステップアップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲刈り</li> <li>・農地の復旧作業</li> <li>・野菜の播種/収穫/選別/販売</li> <li>・障害者の農業支援</li> </ul>

## 7. 本講座のポイント

### ■ 定着率を高めるための工夫

本インターンシップの狙いである、インターン生が地域に定着することによる、雇用の創出の実現性を高めるために、インターネット等による公開募集だけでなく、各地域に対して興味関心のある人材に個別にアプローチする募集活動も同時に行った。

### ■ コーディネーター

各拠点に最低1名の「コーディネーター」を置き、研修プログラムの策定、実施の管理、研修生の個別対応、管理を行う。

### ■ 人材育成のフォローアップの実施

各拠点のコーディネーターが各県修正を担当し、研修期間中のフォローアップを行った。コーディネーター会議を定期的を開催し、各拠点同士の情報の共有化や対処方法などの意見交換を行い、コーディネーターのスキルアップを行った。

### ■ 地域特性を活かしたプログラムを構成

10地域それぞれの地域特性を活かした多様なプログラムを設定。  
各拠点で、農業等スキル習得コース、農村生活体験（短期集中・分散）コースを設置した。参加者の目的にあった拠点およびコースで研修することで、より効果的に成果を出すことが可能となった。

### 事例3. 丸の内朝大学「地域プロデューサークラス」

今は東京で働いているけど、自分の生まれ故郷をもっと盛り上げられないだろうか？ いずれは地元と東京を結ぶ仕事がしたい！ 東京にいながらでも日本の地域を元気にすることを手伝いたい！ そんな地域を盛り上げるプロデューサーが、今、日本には必要との認識から、実際に活躍する地域プロデューサーをゲストに招き、様々な地域のプロデュース事例を取り上げながらその手法を学び、実際に地域が抱えている問題を解決していく実践型のクラスです。2011年の新潟市、三重県に続く2012年夏学期のテーマ地域は、北陸の豊かな土地「富山(富山市・南砺市・立山町)」です開催。

#### 1. 開講概要

研修名称	地域プロデューサークラス ～日本を地域からデザインする！ 富山編～
日程	・全8回(60分) 毎週火曜日 7:15-8:15
場所	・新丸の内ビル「エコツェリア」、富山県
スタイル	・「講義」、「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」で構成。
受講生	・地域プロデュースに関心・意欲ある方
研修費用	・39,000円(税込)
主催	・丸の内朝大学企画委員会 実施：株式会社 umari

#### 2. 研修概要

研修内容	・丸の内を起点とした地域プロデュースのための講義、対象地域でのフィールドワークで構成。
研修目標・狙い	・いずれは地元と東京を結ぶ仕事がしたい！ 東京にいながらでも日本の地域を元気にすることを手伝いたい！ そんな地域を盛り上げるプロデューサーを養成する。

#### 3. 主な講師陣

##### 古田秘馬

(プロジェクト・デザイナー)

東京都生まれ。慶應義塾大学中退。山梨県・八ヶ岳南麓「日本一の朝プロジェクト」、東京・丸の内「丸の内朝大学」などの数多くの地域プロデュース・企業ブランディングなどを手がける。2009年、農業実験レストラン「六本木農園」を開店。2011年、生産者とお客様をつなぐ現代版三河屋「つまめる食材屋七里ヶ浜商店」を開業。日本中の美味しいものを探して1年の半分は旅をしている。株式会社 umari 代表。

## 明石あおい

(NPO 法人地域交流センター理事)

1976年京都府生まれ。5～18歳まで富山県で育つ。大学進学で上京し、卒業後はNPO法人「地域交流センター」に就職。全国で「まちの駅」の普及に努める。2010年5月に富山にUターンし、富山県定住コンシェルジュとして活動した後、2011年6月にまちづくりとデザインの会社、株式会社ワールドリー・デザインを設立、代表取締役を務める。

## 4. テキスト

- ・ 講義資料等適宜配布

## 5. 実施カリキュラム・スケジュール

第1回 7月10日(火) 地域プロデューサーとはいったいどんな仕事？
講師: 古田秘馬
地域プロデューサーとは一体どんな仕事なのか？ そしてどんな人が地域プロデューサーになるのか？ どんな地域活性の事例があるのか？ 授業の進め方など全体のオリエンテーリングも兼ねた基本講義。
第2回 7月17日(火) 今回のテーマ地域「富山」を知る
講師: 古田秘馬、明石あおい
急峻かつ雄大な立山連峰と日本有数の深海湾である富山湾に囲まれた北陸の豊かな土地、富山。堅実な県民性を持つこの富山が今回のテーマ地域。富山と富山人がもつ魅力とは？ そして解決したい課題とは？
第3回 7月24日(火) 地域に眠る資源の探し方
講師: 古田秘馬
地域プロデュースで大切なのが、その土地の本質的価値を見出すこと。農作物や、温泉、風景など、その土地の価値はそれぞれ違うもの。フィールドワークを前にその価値の探し方を学ぶ。
第4回 8月4日(土)・5日(日) 【フィールドワーク】現地視察 in 富山
講師: 古田秘馬
実際に今回のテーマ地域である富山を1泊2日で訪れ、地域が抱える問題や、未来への可能性を、実際に歩き回ることを感じとる、地域の人々の声を聞きながらチームごとに企画を練る。
第5回 8月7日(火) 地域プロジェクトのつくり方
講師: 古田秘馬

フィールドワークを終えて各チームのキーワードが見えてきた中で、実際にそのキーワードをどのように膨らませて、どのように形にしていけば良いのか？ 地域でのプロジェクトの作り方をレクチャー。

第6回 8月21日(火) ブランディング・PRについて

講師: 古田秘馬

地域をアピールするためには、ブランディングするポイントを絞り込み、そこにフォーカスすることが大切。世の中に伝わる地域の魅力の編集方法とは？

第7回 8月28日(火) 地域人材をつなげるコミュニティづくり

講師: 古田秘馬

一過性のブームではなく、その土地に住む人、訪れる人が豊かな時間を過ごしていくためにも地域の人材育成は必須。みんなで意見を言いあえる環境、次世代の人材育成、コミュニティづくりの重要性を学ぶ。

第8回 9月4日(火) 最終プレゼンテーション

講師: 古田秘馬

これまでの授業や現地視察を通して、チームごとにその地域の問題を解決する企画をプレゼンテーションする。



#### 4. 海士町版白熱教室-集落支援員養成講座-

活動を開始する集落支援員、地域おこし協力対員が、実際に集落に入って様々な支援を行う際に必要な知識やスキル、意識・心構えについて学ぶための講座。まちに関する歴史や文化、産業や人口動態、特徴や課題の理解したうえで、支援に必要な実用的な技術（コミュニケーション、写真、助成金申請など）について、海士町役場の若手職員も加わり、受け入れ側もともに学ぶプログラム。

#### 1. 開講概要

研修名称	海士町版白熱教室-集落支援員養成講座-
日程	・2011年5月16日～18日の3日間
場所	・島根県隠岐郡海士町
スタイル	・「講義」、「フィールドワーク」、「ワークショップ」で構成。
受講生	・集落支援員、地域おこし協力隊員、海士町役場職員ほか
研修費用	・無料
主催	・海士町

#### 2. 研修概要

研修内容	・活動を開始する集落支援員に対して、まちに関する歴史や文化、産業や人口動態、特徴や課題の理解したうえで、支援に必要な知識や技術を学ぶ。
研修目標・狙い	・集落支援員が実際に集落に入って支援するために必要な知識とスキルの習得。 ・集落に入る支援員と、受け入れる側である役場の職員がともに同じ講座を受講することで、意識の共有を図り、担当集落で生じた課題をスタッフ同士が協力して解決策に取り組める体制を整える。

#### 3. 主な講師陣

山崎 亮（京都造形芸術大学）

醍醐 孝典さん（京都造形芸術大学）

西上ありささん（集落支援員）

高山ゆみこさん（雑誌編集ライター）

出野のり子さん（映像ディレクター）ほか

#### 4. テキスト

- ・講義資料等適宜配布

#### 5. 実施カリキュラム・スケジュール

第1回	2011年5月16日	「時代が変わるということ」
第2回	2011年5月18日	「やってみるということ」
第3回	2011年5月18日	「きく」「みる」「話す」
補講	2011年6月中旬	『未来を考える仲間』をつくる

#### 6. カリキュラム詳細

##### 第1回 2011年5月16日 「時代が変わるということ」

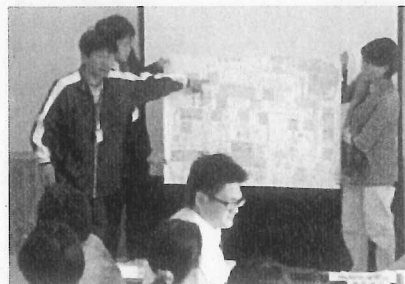
集落支援員ほか行政の若手職員が、海士町の未来を担うために必要な、環境認識（人口減少、高齢化等）の理解を深めるための講義が行われた。さらに、課題に向き合い、時代を変える人、チャンスをつかむ人になるための素養、意識について理解を深めた。午後は、グループに分かれて、海士町の課題について成功事例の調査を行い、地域や環境の共通点、海士町での実現可能性について検討した。

##### ■ 午前の時間割

- 09:00 はじめに
- 09:10 自己紹介
- 09:25 「時代が変わる」ということ
- 10:00 プラントハプンスタンスと  
Yes, and ふうまくいく
- 10:45 集落支援員と海士町の基本方針
- 11:00 町内14地区の現状
- 11:15 海士町と日本の課題を書きだそう
- 11:45 テーブルごとに意見発表

##### ■ 午後の時間割

- 13:00 解決したい課題を決めよう
- 13:20 成功事例を探そう
- 14:40 課題と事例発表
- 15:00 いい事例とは何か
- 15:15 まとめ、ふりかえり



第2回 2011年5月16日「やってみるということ」

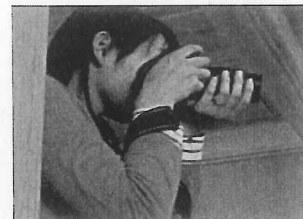
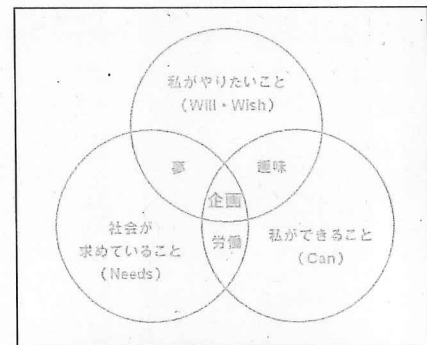
午前中は、企画書助成金作成のポイントの講義が行われ、昨日ここで考えたアイデアを元に、同じ志を持つ者同士、グループを組んで、課題解決の企画書を練り、発表した。午後からは、企画書、報告書の作成に使われる、写真・動画の撮り方さらに、人目を引きつけるような、文章の書き方を学んだ。

■ 午前の時間割

- 9:00 はじめに
- 9:05 ○○さんの隣の隣の・・・
- 9:00 グッドジョブカード
- 9:35 企画書のイロハ  
助成金のポイント
- 10:00 ひとりで企画書を書いてみよう
- 11:00 仲間を探して意見を交換しよう
- 11:30 企画発表会

■ 午後の時間割

- 13:00 伝えるコツ
- 13:05 写真の撮り方、実習
- 13:45 動画の撮り方、実習
- 14:25 文章の書き方、実習
- 15:05 質問タイム
- 15:15 まとめ、ふりかえり
- 15:30 終了

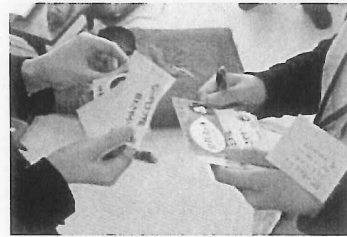


第3回 2011年5月16日「きく」「みる」「話す」

3日目はコミュニケーション力を高めるための養成講座です。皆さんは自分のアピールポイントを言えますか？前半は、名刺に名前とアピールポイントを記入したオリジナルの名刺をつくって自己紹介！後半は普段あまり意識しない自分の話し方きき方について、実践した。

■ 午前の時間割

- 09:00 昨日のふりかえり
- 09:05 私は誰でしょう？
- 09:25 コミュニケーション講座
- 09:45 名刺を作ろう
- 10:15 名刺交換しよう
- 10:45 話し方、効き方チェック
- 11:15 たずねる(聴く)、こたえる(話す)、  
観る
- 11:45 ふりかえり
- 11:55 グッドジョブカードの交換、振り  
返しシート



補講 『未来を考える仲間』をつくる

2011年5月16日から18日に開催された海士町版白熱教室—集落支援要請講座—が行われ、集落支援員ほか行政の若手職員が、海士町の未来を担うために参加した。今回の補講はその際に参加できなかった方を中心に16名が参加。また、白熱教室で受講生として参加したムラー、花房、浜中、中西が講師役をつとめました。

■ 補講の時間割

- 19:00 はじめに
- 19:10 自己紹介
- 19:20 「時代が変わる」ということ
- 19:30 みんなでかんがえてみよう
- 19:50 海士町の基本方針
- 19:55 企画書の書き方
- 20:00 プラントハプンスタンス、  
Yes, and とうまくいく
- 20:10 コミュニケーション講座  
「私は誰でしょう？」
- 20:25 集落支援員の活動
- 20:30 もっとくわしくおはなししましょう
- 20:50 おわりに

